

アトリエ みつしま

対話鑑賞 記録

参加者

光島貴之
高内洋子
かめちゃん
あかねさん

日時：2021年11月17日（水）13:00-16:00
会場：「アトリエみつしま」内 大広間

本展覧会では、光島貴之氏を囲みアトリエみつしまスタッフの高内洋子氏とその仲間のかめちゃん、今回が見えない方との対話鑑賞が初体験となるあかねさんの4名で、本展「旅にでること、その準備」出展作家6作品の対話鑑賞会を行い、その際に収録した音声をお聞きいただいております。収録した音声は会場だけではなく、本書に添付している各作家のQRコードより読み取り、お聞きいただくことも可能です。

また、収録音声にて使用しているジングルは、アトリエみつしまラジオよりお借りしています。



アトリエみつしま
ラジオ



「旅にでること、
その準備」
対話鑑賞



上嶋浩綺

UESHIMA Koki

萌花共和国の地図

作品タイトル：「萌花共和国地図」

制作年：不明

サイズ：534×372mm

素材：紙、ボールペン、色鉛筆

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

萌花共和国の地図

対話鑑賞 #1

上嶋浩綺の作品について

—

光

光島（以下・光）：最初にちょっと、あの構図とかよりも、パッと見た印象、第一印象というか、一言づつでも順番に聞いていこうかな。かめちゃんから。

かめちゃん（以下・か）：はい。えっと…細かい文字がいっぱい書いてあります。漢字書いてるんですけども、その上にフリガナが振ってあったりとか、えっとローマ字で表記してあったりとかします。

光：あかねさんどうですか？

あかね（以下・あ）：…第一印象。耳みたいな形。が全体。耳を拡大したような。真ん中に耳の穴みたいなのが空いてるんですけど。

光：聞ってるんや。

あ：聞ってるように。パッと見たところ。

光：いいですよ。じゃあ高内さん。

高内（以下・高）：地図。地図です。これ地図です。

光：絶対地図？

高：絶対地図。

光：ちょっと待っているんな文字とか、耳とか、地図とか。

高：なんかね、地図なんですよ。で、あの、そこにいっぱい字が描いてあって、町の名前とか、あの…。

か：山の名前とか。

光：読めるんやね。じゃあ

高：読めます。その全体が耳みたいな。あ、島！島の地図なんですよ。なんかそれがね、耳っぽい。形が。

光：ああ、その島の形が耳っぽいつこと？

高：で、耳の穴みたいって、さっきあかねさんが言ったのが、中に琵琶湖みたいに湖があるんですよ。

光：それが耳の穴？そういうことか。

あ：で湖の真ん中にもなんか、高速道路じゃないけど橋みたいなのが、細く架かってるし、耳の細かい線みたいに首都高の線とかそういうのが見えるのかな。周りは海ですね。

海に浮かんでる耳。耳ヶ島みたいな。

高：耳ヶ島！はは。

光：周りは全部海があるんですか？

か：そうですね。水色で塗っているので。

光：雰囲気的には大きい島ですか？小さい島？湖が中にあるってことは大きいってことですかね。

高：まああ大きいと思います。というのは、上の方にね1cmが1kmって書いてある。

か：あゝここ。これなんて書いてあるの？

高：2kmかな1kmかな。

光：縮尺を書いてんねんな？

高：多分これ島50cmくらいやろか。だったら50km？

か：内側から。赤…赤っていうか朱色、ピンク、水色、肌色、えーっと、なに…？あずき色、紫、うーん、赤紫、紺、で一番外が、グレーに近い紺、みたいな。

光：それで1つ？で、もう1つあんのかな？

か：もう1つは…丸っぽくないんですけど、青の線が紺…紺色で横に線がはいてってその外側が白、サーモンピンク、ミントグリーン、ピンク、肌色、黒、あずき色、…なに？…グレー。で、一番外が濃いグレー。ですね。

光：え、今は同心円状じゃなくてって、いうことですか？

か：同心円は同心円なんですけど、真ん中の最初の部分が、紺がちょっと少ない。

高：丸なんですけど、全体ちょっとへちやがったみたいな。上からぎゅっとおさえて、お饅頭みたいな形に、真ん中も細長い感じ。

光：えっと、どの丸もそうなんですか？

あ：オーバル、なんとなく。

か：ちょっと楕円。

光：その丸が画面のどこにあるん？

あ：飛行機の…えっと、コックピットの上に1つ大きい丸がボンと。飛行機の、あ、またその飛行機を挟んでその下、で、あとは飛行機のお尻のところに1つ。

光：お尻の後ろ。

あ：お尻の後ろ。端っこですね。右端ちょっと真ん中より下らへん。

光：ということは飛行機は左の方に向いて飛んでる。

か：どうですかね。

高：でも、飛行機のお尻、真ん中らへんにあたんのかな。にも丸いのあるんですけど、なんやろ。これは違うのかな？

か：飛行機の模様なのか？

光：飛行機の胴体についてるのもある？

か：ついてるのもある。

光：なんでしょうね、その丸は。

あ：なんか全体的に地層みたいに、同系色で濃淡ついているような。翼だったら青系なんですけど。翼の形でぐるーっと色変えながら、どんどん中心に入ってく。なんか地層みたい。全部塗り方というか刺繍の仕方が。

か：ひと針は3cmぐらい。3-4cmぐらいで、で、それが見えなくなるぐらい、布地が見えなくなるぐらい、あの、縫われてる。

光：飛行機の飛んでる感じが出てるんですか？

あ：クジラっぽくないですか。トビウオみたい。

光：あ、トビウオっていったね、さっき。

あ：上下にシャンってこう…飛んでる時の、あの、尾びれと胸びれみたいな。でも本体は飛行機ですね、ばっちり。

光：羽が短いつつということかな、さっきの話。トビウオって。

あ：羽の形？

高：うん。形かなあ

あ：笹みたいな。笹の葉っぱみたいのがついてるから。

高：ちょっと曲線っぽいところが、なんか生き物っぽくみえるとかなかなか。飛行機の羽って普通、直線で描かれるけど、曲線っぽいところが。

か：なんかその…飛行機の後ろの方、後ろの方っていうが、布に、飛行機っていうのは真横になるんですけど、布がちっちゃすぎたのか、なんか後ろの方だけ上にあがってるんですよ。跳ね上がってるみたいに。なってるから、なんか余計に魚っぽく動きがある感じ。

光：跳ねてる感じか、なるほど、そういうことか。

あ：それがまた、かわいい。

か：うん。ちょっと窮屈そうな飛行機。

あ：雲みたいにさっきの楕円が、ボンボンンって浮かんでる。

高：雲なんかな。

光：あ、雲。そうやねえ、そうかもしれね。

あ：すごいカラフルやけど。

か：飛行機に窓もあって。丸い窓がついてたり、ドア？があったり、コックピットの窓があったりします。

高：雲かな？って言ってたやつ、でも同心円状やから、ここの中に入ったら別の世界に繋がってるみたいな。

あ：なんかね。

か：ワープできそうな。

あ：吸い込まれそう。

光：飛行機は上昇しているんですか？それとも真っすく飛んでる？

あ：まっすくかな。

高：真横かなあ。

光：ということは、そのさっきのしっぽのところだけが跳ね上がってる感じ？

か：そうですね。

高：人とか乗っていないね。乗ってないというか写ってない。

光：他にも何か描かれているものはないんですね。それだけ？

あ：色使いで、すごい表情出してる。

か：使ってる色がその渋い、渋いつつというか、なんか赤って言っても赤じゃないっていうか、赤っていうより朱色だったりとか、青もまあ紺とか、なんとなく渋い。

あ：くすんでる。

か：色使いが落ち着いてるんですかね。いろんな色を使ってる割に統一されてる感じ。

あ：飛行機の翼は青系統でまとめられてたりとか、飛行機の本体？も窓とかあるような上部は、オレンジだったり赤とかピンクで、形に何回もぐるぐるぐるぐる縫っていく、感じなんですけど。真ん中は緑系、それが跳ね上がるところまで同系色でこう、三段階ぐらいになっていますね。下は黄色、黄土色系。あとはなんか色使いが…地層。

光：黄色系っていっても、1色じゃないんですよ。

ね。

あ：茶色だったり黄土色だったり。

高：外から順番に内側に向かって縫っていくのかな？なんかなんとなくそんな気がした。このへんとか、こっから順番は行きにくいかな？

か：触ってほしいぐらいけっこうモコモコ、モコモコっていうか。ちょっとふわっと。

あ：色使いがかわいい

高：この色すごいきれい。

—

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高



松原日光「雲と飛行機」

松原日光

MATSUBARA Hikaru

作品タイトル：「雲と飛行機」

制作年：不明

サイズ：622×796mm

素材：糸、布

対話鑑賞の音声は上記 QR コードにてご視聴いただけます。（11分 22秒）

対話鑑賞の音声は上記 QR コードにてご視聴いただけます。（11分 22秒）



対話鑑賞の音声は上記 QR コードにてご視聴いただけます。（11分 22秒）

対話鑑賞 #6

松原日光の作品について

—

光島（以下・光）：じゃあかめちゃんからいきましょか。まあ、第一印象で。

かめちゃん（以下・か）：第一印象は…。描かれているもの、言っていていいですか？

光：いいですよ。いいですよ。

か：飛行機です。飛行機と丸が三つ…です。

光：じゃあ、あかねさん。

あかね（以下・あ）：はい。なんか、飛行機なんですけど、クジラみたいなトビウオみたいな。その…飛行機についての、なんていうの。翼（よく）…翼（つばさ）がトビウオっぽい、なあっていう、のと…すごいカラフルですね。

光：うん。じゃあ高内さん。

高内（以下・高）：はい。これあの…刺繍でできてます。

光：あ、そうなん。

高：あの…結構大きな。1m かける 60 cm ぐらいの横長なんですけど。あのカラフルな色で、全部。でも私バツとみた時、刺繍ってわからなくて、

遠目を見た時、で、ようみたら刺繍ってわかったんですけど、わからなかった理由は多分、地の色がみえないぐらい隙間が全然ないぐらい、まるで塗ってるぐらい密度が高く塗ってるあるから、そう思った。

光：ふーん。えっと…生地の色っていうか、は？か：生地は生成りみたいな。はい。

光：それに…飛行機と、さっきいった丸。その色は？

か：丸は、1つは赤と、緑と茶色と、ちょっとくすんだ緑と紫…みたいな、この、四重丸みたいな形に。

光：よんじゅうまる？

か：丸が。

高：同心円。

光：ああ 1つの丸がですか。

か：1つの丸が、で、色が変わってます。

光：ああ今言ってくれた色が。

か：今は外側から色を言っていたんですけど、赤で緑で茶色でとか、1つの丸はそれで、あと 2つの丸もいろんな色が使われてて同心円状になっている。

光：内側から順番に色を言ってくれる？

光：あるゆうこと？

か：50km ってどんなぐらい？

高：50km って、大阪 - 京都間ぐらい？わからん。

光：ほんまかいな。

あ：まあまあな時間かかりますよね、横断したら。縦断か。

光：ええ、それはどう、淡路島ぐらいとかになるんやろか、もっと大きいな。まあいい、とにかくちょっと小さい島ではなく割と大きめな島ということで。その耳の形みたいな島ということですけど、じゃあ、耳ってその縦の…。か：縦長です。

光：縦長ってことですね。

か：で耳たぶみたいなんもあります。

光：えー耳ヶ島やなやっぱり。えっと…全体の絵の大きさとってどれぐらいですか？今、島が 50cm って言うけれど、海も全部いれたら縦横の大体、おおよその寸法。

高：縦 60 横 40、ぐらい？

光：縦長なんやなやっぱり。

か：耳縦長です。

高：街、栄えてそうじゃない？

か：なんかいろんな、ね。

あ：山もいっぱいあるし、区も港区とかなんか、北区とか。

光：あ、そんなんも書いてある？

か：市もいっぱいある。群もある。

あ：この島の中に府もあるから、おもしろい。

か：村もある。

あ：村もあるし、府もあるし、市もあるし、街も、群もあったりとか。

光：なんかか府って書いてあんの？

か：書いてあります。

光：何府ですか？

か：えっと、なんもえふって描いてある。南に萌に府、南萌府南萌市港区…が海の近くににあります。東萌府（とうもえふ）もあります。

光：かなり細かく描きこんでるっていう？

あ：そうですね。ちゃんとその田んぼらしき、区画分けとか。川とか、高速道路とか、国道とか…地図ですよ

か：インターチェンジもあります。

光：インターチェンジもあるんですか。

あ：電車も通ってる。

光：えっとどっかから、橋がその…島に来ているっていうのはなくて？

高：外からは架かってなさそう。だからたぶん船で。ここの島に行くには船か飛行機か。

光：飛行場はあんの？

高：飛行場あんのかな。

光：ちょっと孤立してる？

あ：港がいっぱいあります。

光：独立はしてんの。国はない？

高：これ全体が国？これ全体が国みたい。

か：これ全体が国。

光：なんかさうゆう表記ありますか？

あ：あの縮尺書いてあったところの横に、「萌花共和国地図」って書いてある。

光：共和国なんや。

あ：共和国でした。

光：じゃあ独立した、独立国か。えっと…なんか発展具合というか、島の元気さとか。

高：ここすごいよね。

あ：北区のエリアが密集してますよね。

か：栄えてる。

光：家が密集してるってこと？

高：道路がね。すごい密集してて街が、区画が細かいんですよ。で、えっと上が、これが北…北とか書いてないんか。まあ画面の上、あ、北か、北って書いている、ほじゃやっば北なんやね。北東…エリアが栄えていて、東、真ん中らへんのエリアが栄えててそれと東。港区が。

あかね：でも住宅街っぽい

高：ベットタウン？

光：工業地帯みたいなのもあるんですか？この島の、この国の産業はなんですか？

か：産業はなんだ？

あ：× に丸ってなんでしたっけ？

高：警察？

あ：警察がいっぱいあります。警察だけでもすごい数ありますね。× に丸。丸の中に × か。

光：すごいって、どれぐらいありますか？

あ：1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13 …今バツとみたところで 13。14？

光：50km ぐらいの島やとしたら、それぐらいあってもいいのかな？

高：電車…。

か：ロープウェイもあります。

高：あ、ロープウェイ、あ、ほんまや。

光：山があるの？

か：山があって。なんぎんさん。南に銀の山、で何銀山ロープウェイ。

あ：標高も書いてある。646？

高：まあまあ、高い？

光：そんなに高くない、比叡山よりも低いよ。

あ：で、その西っ側にも、とう…ぎょうやま。東に行に山、それは 1282m。

光：あ、高いね。

あ：さうゆう感じで山もいくつか。

高：なんか全体敵に島の西側は山…とかちょっと田舎っぽい。東側の方が街、栄えてるって感じかな。この海沿いの電車に乗りみたいいな気持ちになる。

光：港はあるんですか？港区っていうぐらいやから。

あ：港、いっぱいありますね。

光：船は停まってますか？さうゆうのは描かれてないか。

高：さうゆうのは描かれてないかな。

あ：外今港（そといまこう）とか、薬萌港（やくもえこう）とか、南古港（なんこう）とかぐるっと。

光：さっき言われたようにあれやね、船で近づくしかない。

高：地下鉄…ちゃうか？これ四角に点々点々ってなってるの。これはなんか…国鉄みたいじゃない？白黒のって、J R ってイメージがある。街の辺は地下鉄が、多分ある。ようみたら。

光：じゃあここには住みたいんですか？ここに移住したい？

高：私は、結構住みたい。

光：理由理由。

高：っていうのは、街と田舎がほどよいバランス。あの、街は街でそれなりに、多分便利に整ってる。でもちょっと移動したらすぐに郊外に出て、自然がある。海もすぐ近くやし、なんか住むのにすごいよさそう。気持ちよさそうやって思いますね。

光：他の人はどう？

か：住むなら、山のあたり。電車もちゃんと走ってるから、そんな不便ではなさそうな。

光：不便なところは嫌ですか？

か：不便なところは嫌ですね。

光：あかねさんは？

あ：私…船が苦手で…、住んだら永住って感じですね。

か：出ていかれへん。

高：あ、でも国やから、この中でわりと完結出来るかも。

あ：でも旅行とかが行きたい、友達に会いにとか。光：この展示会のテーマが旅らしいので、この絵はさうゆう島に住みたいなって兼ねてるのかな、そんな気がなんとなく…してきましたけど。

あ：萌花共和国の萌の字が結構そのいろんな地名やとかに、使われていますね。もえ。南萌府とか南萌市とか。

光：この萌はどうゆう意味の「もえ」なんでしょうか？今流行りの「もえ」なんですか？

か：もえ～の萌です。

高：この漢字はそうですね。もえ～の萌。

あ：萌に花で「もえか」。萌花さん？

か：もえかさんかなって思った。

高：なんか小っちゃい女の子の名前みたい。

か：もえかさん。



勝山直斗

KATSUYAMA Naoto

作品タイトル：「タイトルなし」

制作年：不明
（2021年10月20日、久美学園にて撮影）
撮影：art space co-jin

対話鑑賞#5

勝山直斗の作品について

光島（以下・光）：じゃあいきますか？はい。じゃ

あどうしよ、高内さんからいこっか。

高内（以下・高）：はい。あ、三つ写真が…あ、ちゃうわ。何を言ってほしいんですか？

光：何を言って…僕もそれはわからないんですけど。
高：第一印象？
光：第一印象じゃなくて、どうなってるかっていうのを。

高：3つ、今、前に横長の写真が並んでるんですけども、部屋の写真。全体ひきの写真が1枚と、そのアップの写真が2枚なんですけど。壁に絵が描いてあるんですよ。壁に絵が描いてあるのと、で、その壁の絵のアップの写真と、天井になんか…なんやろうなこれ。なんかさバツと見、噛んだガムをピッと投げてベチャっとなつけたのがいっぱいあるみたいに見える。

かめちゃん（以下・か）：カラフルです。

高：カラフル。

光：それが写真に写ってる？

高：写ってます。天井に写ってます。そのアップの写真もある。

光：写真3枚あるって。

高：3枚です。1枚目が部屋全体で、2枚目が壁面のアップ、3枚目が天井のアップ。

光：そういう構成ですね。ではかめちゃん、その続きで。

か：なんか部屋の写真をよく見たら、なんかあの…クレヨンみたいなマジックか、絵を描いてるところと、壁紙を…剥がしてるところがあるなあって思って。その壁面のアップの写真も、剥がしてるところが…剥がしながら電車の絵とか、車の絵を描いてるのかなっていう。
光：剥がしながら？
か：あの、白い壁紙なんですけど、それ剥がしたところが茶色っていうか黄土色みたいな…壁なのかな？
あかね（以下・あ）：ダンボール系ですね。
か：ダンボールみたいな。
光：で、そこに描いてる？
か：いや、めくって剥きながら描いてる？
あ：剥きながら描いてる、壁紙が剥けてるところが線になって、車の形とか…。
高：切り絵みたいな。
か：それで電車の形に壁紙をめくって行って…。
光：めくって行ってというのは、壁紙を切ってるってこと？
か：ちぎっている。
光：ちぎったところに裏側のなんか…茶色い？
か：茶色が見えてきて、それが電車とか車とか。
光：の形に切り抜かれているってこと？
か：のとこると、絵を描いてるところがあるのかな？っていう。でもこれは全部めくれてるところか。

あ：剥いてるところと、反対側の…部屋？6畳ぐらいの部屋なんですけど、家具とか何も置いてなくて。天井にガムみたいななんがいっぱいついてて、右側の壁は剥いてる絵？多分剥きながら、白で抜きたいところはそのままにしといて、線だったり面だったりして。左側の壁はペン？クレヨン？直接白い壁に描いてますね。大胆に

ピッピッと入っていたりするけど、ほぼ全面かめちゃんと言った色。で、具体的なものは描かれてないですよ。全部、塗りまくられてる。

か：線とか丸とかちょっと手を動かしてる感じで…描かれたような。

光：今言ってくれた色はでも暗い色ですか？別に？緑とか青とか。

あ：なんか地球儀の色みたいな。

高：寒色ではあるよね。暗くはない。

あ：水の中とか、森の中とか。地球儀の色合い。

か：それが重なっているので、ちょっとボヤッと見えることもあれば、あの…明るくとか、色が鮮明に見えるところもあるとか。水の底みたいなの。

あ：水っぽい印象を受けますね。

高：なんか重ねているからかな？上の方とかは、塗ってる時に手でこすれてたりする部分があるんやと思うんですけど。なんかだから、層があるような感じがするんですよ。深さがあるような感じが、水っぽく見える理由かなって思います。

光：あ、色を重ねているからってことですか？

高：下の方に線が見える、手でこすれて面っぽくなっているところの下に線があるのが、透けてみえる。

光：どうなんでしょう？何を描こうとしてるかっていうのは全然なくて、手が動くままに、色を塗ってるみたいな感じ…なんですか？

あ：好きな色なんかな。毎日その色を選んでやってるのかな、みたいな。めくってもまた同じような水の中。めくってもめくっても

高：なんかでも、もしかしたら、毎日本当は新しい色にチャレンジしようとしても、結果的にこの色になっちゃうみたいなの。最終的に。

あ：でも、ありますよね。みんなそれぞれ選んじやう色って。

光：沢山、クレヨンは沢山あるけどもってこと？

あ：傾向とか。

高：で、ちょっと違うオレンジとかもピッピッと見える、使ってみようかな。でもやっぱり緑加えよかなみたいな。

あ：青、緑らへんが小さくなっているんじゃないだろうかっていう、クレヨンの。消費が早そう。

光：青、緑が一番多いでしたっけ？だから、それが水、水の中ってことになる訳やね。地球儀の色ってそういう色なんですか？僕はちょっと、知らなくて。

あ：地球儀の色、大陸が緑で海が青なんで、結局こう、宇宙から見たら緑と青みたいな、ちょっと雲がかかった地球儀もあるけど。連想ゲーム的に言うと、地球儀っぽいなっていう、色合いではあるけど。でもこのクレヨンの擦れ具合とかが、光にもみえたり。白地がね。もともとの紙の色が。端っこまでびっしり塗られている訳ではないから。

光：それは紙の真ん中のあたりでも白いところがあったりするってことですか？端の方にある？

あ：リングに近いところは、めっちゃ濃い気がします、クレヨンが。中心はぐわーって、こう短くなるまで、わからへんけど。削れそうなくらい厚みがあるなあって。

光：誰かね、こんな風な描き方してるって、僕の手を持って、こうゆうふうにかいてるとか、こうかいてるとか。いける？

高：こうゆう感じかな？

光：上下？

か：ちょっと斜めもないですか？

高：なんか色々、上下左右にこう、斜めにこう、色々こう…たまにビュッといたりとか、ピッピッてなったりとか。そうゆう感じ。

光：今の手の動きからいうと、グルグルしてるわけではなくて、なんか線をいったりきたりしてる。横にいたり。

あ：わりと上下左右っていうか。

高：確かに直線って感じ。

あ：ところどころパッテンとか。

光：それも直線ですよ。

か：あんまりストローク長くないですね。5cmぐらいとかをずっと動かしてる感じがしますね。

光：毎日こうゆうのを描いて…、次々とページをいってる感じ？

あ：もしかしたら、またページもどって描き足したりしてんのかな。だってポロポロ。端っことかが何回も挿んでめくったりしてるから、ちぎれてったり、リングの上下がね、真ん中だけでとまっているみたいな状態なんで。繰り返し繰り返しめくったりしてとかして描いてるのかな、とか。

高：確かにすごいめくってそうやね。

あ：何回も何回も、いったりきたりしてる…のかな。

か：か、眺めているか？描いたのを眺めて…。

光：なんか絵を描き足すってゆう行為が、僕にはちょっとあんまりわからなくて、自分が1枚描いたとしたら、それにまたある時、重ねてまた描くってことをあんまりしたことがないけど…。みなさんどうですか？そういうことする？1回描いた自分の絵を…まあ絵でもなくても。文章やったらするよね。

あ：言われてみれば絵は完成、終わりって感じかな、私は。どこかで区切りをつけて…しまえますね。

高：パソコン上やったらね、消したりできるから、あとあと手を加えたりするけど、直接描くものは消したりできないから、あんまり、そういうことないかも。

光：消すというよりは、付け加えるっていうことになるんやもんね。

か：でもなんかこう、例えば、わからないですけど、指とかで触ってみてる。触ってみたら手

について薄くなって、それを薄くなったのが嫌やから、また色を濃く塗るとか。なんかそう、わからないですけど。持ち歩いてるから時々触ったり見たりして、薄れていく。

あ：毎日愛でてる感じが、なんかしちゃう。するんですよ。端っこの丸まっているページとか。

光：それは結構、さっきから共通ですね。何回も見たり触ったりしてるんじゃないかっていう。あ：だからそうゆう風に触ったり…めくったり…描き足してはないかもしれん。どうでしょう？
か：白場って言ってたことも、かすれたクレヨンの色っていうか、こすれたように映ってるので、結構描く時にこすれるんじゃないぐらい…白場も色がついてて。

高：うん。全体的についてるね。色。そうか、移ったりもしてるんかな？

か：移ってるけど、見る時に触ってるんかな？

光：あれ、ごめんささい。裏は描いてるんですけど？

か：裏も描いてる。

光：裏表描いてる。

あ：描いてたり、描いてなかったり。でも結局移っちゃうから、全体的に青みがかったような。

光：数字とかページ数とかは全然？日にちとかそういうのはないんですね。

高：1日1ページ描いてんのかな。一気に描くのかな。でもちょっとづつ時間をかけて…1冊を作ったって感じがする。

光：表紙みたいなのは、どうでしたっけ？ないのかな？

か：ないですね。

高：市販のままで、手を加えられてはない。

光：表紙の部分に何も描かれてない？

高：何も、でも角とかすごい！

か：表紙の角も白くなって、印刷がハゲてる。

高：これってよっぽどやね！

光：そうとう古いっていうか、使いこなしてるっていうことに間違いないですよーね…。やっぱりしょっちゅう持ち歩いて。

あ：なんかこう、描きたくなったら、開いてすぐ出来るようにしてはんのかなって思ったり。あ、今！みたいな感じで取り出しては、描きたりとか…してるのかな。

光：これは得に別に、さっき言った地図とかとは、そんな感じとは全然違うんですよ。

あ：すごい抽象的です。クレヨンの重なっている線です。

あ：スケッチブック自体がすごい分厚くなってますよね。厚みがすごい。

対話鑑賞#2/ 西生てる子「タイトルなし」

対話鑑賞の音声は上記 QR コードにてご視聴いただけます。(14分58秒)

対話鑑賞#3/ 西生てる子「タイトルなし」

対話鑑賞#4/ 西生てる子「タイトルなし」

対話鑑賞#2/ 西生てる子「タイトルなし」



古谷秀男

FURUTANI Hideo

「無題」
https://www.instagram.com/hideo.furutani

作品タイトル：「タイトルなし」
制作年：不明
サイズ：274×382mm
素材：紙、ペン

画像提供：Able Art Company

対話鑑賞 #3
古谷秀男の作品について
—
光島（以下・光）：誰から、高内さんからいこかな。高内（以下・高）：シンメトリー。で、構図が、なんかすごい安定してるなって。光：はい。あかねさんは？あかね（以下・あ）：えー第一印象…森の中。光：じゃあかめちゃん。かめちゃん（以下・か）：えっと…、なんかハッピーな感じがしますね。光：うーん。ハッピーな感じ。なんとなく安定しているってゆう…言われたし。幸せな感じ？あ：色使いがすごい鮮やかなんで、なんかそれが心明るくなるような。パッと、カラフルです。光：で、どんな色使ってるんですか？具体的には。あ：黄色と…ピンクが目立ちますかね。高：特に、真ん中につかい木があるんですけどね、それがその枝が左右にのびてる、横長の絵なんですけどね、その木のね、先に…これは実かな？実みたいなのがなってるんですけど。光：赤い実ですか？

高:その、ピンクなんですけどね。そのピンクが、なんかハッピー感がとりわけ感じられる。

光：そこでハッピー感がでてる。

対話鑑賞 #3

古谷秀男の作品について

—

光島（以下・光）：誰から、高内さんからいこかな。

高内（以下・高）：シンメトリー。で、構図が、なんかすごい安定してるなって。

光：はい。あかねさんは？

あかね（以下・あ）：えー第一印象…森の中。

光：じゃあかめちゃん。

かめちゃん（以下・か）：えっと…、なんかハッピーな感じがしますね。

光：うーん。ハッピーな感じ。なんとなく安定しているってゆう…言われたし。幸せな感じ？

あ：色使いがすごい鮮やかなんで、なんかそれが心明るくなるような。パッと、カラフルです。

光：で、どんな色使ってるんですか？具体的には。

あ：黄色と…ピンクが目立ちますかね。

高：特に、真ん中につかい木があるんですけどね、それがその枝が左右にのびてる、横長の絵なんですけどね、その木のね、先に…これは実かな？実みたいなのがなってるんですけど。光：赤い実ですか？

高:その、ピンクなんですけどね。そのピンクが、なんかハッピー感がとりわけ感じられる。

光：そこでハッピー感がでてる。

高：私はそこが一番ハッピー感が、絵の全体になんか、ハッピー要素を。

光：木にっていうのはなんかクリスマスっぽいんですか？

高：葉っぱ、他の緑のはっぱとかなくて実だけが先についてるんですよ。

か：太い幹に枝がすごいいっぱいあって、枝があって、実、花。これ花ですかね。花と実がなってる。

光：実はいくつ？

あ：ひと枝に1つ？実？これ。葉っぱに？葉っぱなんかな？

か：もしやもしやもしやって。

高：なんかちっちゃい丸、ブドウみたいな。

あ：じゃあ真ん中が花か。なんせ人がこう万歳しているみたいに、こう真ん中に顔の位置に花？で両手の万歳しているみたいに、実がなってるのが、枝ごとに。

高：枝の先が全部そうなってるんです。

あか：人なんです。万歳した人みたいです。花と実の。でもなんか不思議な木ですよ。切り株っぽい。

か：そこなんか入り口みたいな。

あ：あいてる。部屋になってる。

か：木の中が部屋になって、なんかお膳みたいな、1つあるんですけど。

光：ええ、ちょっと待って、なんか全然…全然イメージが出来ないぞ？なんなんだそれは。

あ：実物を写してはいるんですけど、色味を、あの…。

か：設定を変えてるみたいなの。

あ：黄色と青の2色にして

光：今の中で言うと、黄色は？どの部分？

あ：洗濯ネットのメッシュ部分ですね。ファスナーは青なんですよ。メッシュの生地裏も、なんていうの、透けて青が透けてるけども、そこはメインで黄色で。あとレースの部分もちょっと黄色ぼくなってるけど、全体青っぽい感じですよ。

高：構図はわかりますか？

光：わかってないね。

高：構図は左上にどーんと洗濯ネットが四角くあるんですよ。4分の1、もっと、もうちょっと大きい。で、その洗濯ネットの右横はレースのカーテンみたいな、レースの布。で、画面の左下に、なんだろうね、ストールみたいなんかな？ちょっと折れ曲がって、グシャッとしたやつがポイッと置いてある。で、その3つが…あって、その向こう側…奥に人がおる。

光：人がおる？

高：人の鼻と手がその隙間から、ものものの隙間に、手と鼻が見えてるんです。

光：隙間っていうのは、その今いった、洗濯ネットと何かの間？

高：うん。洗濯ネットとレースは重なってて上半分を構成してるんですけど、左下三分の一ぐらいが布。でその残りの隙間から人の姿が、顔と手が覗いてる。

光：ってうことは右下ってこと。

高：そうですね、右下に手があって、で…。

あ：手をついてなんか、覗き込んでるみたいな。

高：洗濯ネットと布の間にも隙間があって、そこに鼻が見えてる。

光：手は？

高：手は右下。

光：1本？

高：1本。片手、左手だけ。

光：あ〜、左手ね。鼻と手だけ？

高：そうですね。手の平、小指の下…あたり。山になってるところを押し付けてる感じ。

光：押し付けてる？押し付けてるってどこに押し付けてる？

か：コピー機。

高：コピー機、コピー機やと思うんですよ。これ多分。コピー機ってねガラス面があるじゃないですか？

か：蓋みたいなんついてて、それに挟まって。

高：そこにまず、コピー機、横長にコピー機あるでしょ。そこに洗濯ネット置いて、レースのやつ置いて、下に布おいて、でその出来た隙間から手ついて、鼻をガラス面に押し付けてる。光：ええ〜…？ますます分からなくなってきたよ。

か：でスタートボタン押して。スタートボタン押して、コピーされてます。

光：はぁ…何がコピーされてる？

か：顔とかネットが。

あ：置いたものが出力されてる。

高：窓から覗き込んでるって思ってもいいかも知れません。それが、向きが変わってる状態。

光：こっちに向かってるんですか？窓があるとしたら、その手前に窓が？

高:そうですね。一番手前に。窓と考えるならば、一番手前に窓があって。

か：布があって、奥に人がいる。

光：でも人はその鼻と手しか、見えてない。

か：鼻の先と手の…なんででしたっけ、小指の下の…。

あ：小指の横、小指のはら？

光：ああ、あの、小指球というか…。

か：が、白いんですよ、真っ白で、鼻の頭と。だからこう、画面っていうか、その、引っ付いてます。直接、ガラス面に。

高：強く光を反射してるから白く飛んでるんやと思うんですよ。

か：ちょっと離れてたらそうはならないと思うんですけど、べちゃってついてるから。

あ：もうちょっと露出したら、光をあげたら、多分顔の肌の感じとか見えるんやろうけど、すごい暗くなるから。

か：蓋閉めてるから？

あ：蓋閉めてるからかな？ほんとに鼻の穴が黒くて鼻の頭が丸く光ってるみたいな見え方なんですよね。

光：でね、その顔がまああるわけでしょ、本来なら。首とかも。で、それは位置関係としては成り立ってるんですか？そういうのはちゃんとあるように。

か：成り立ってます。挟まるかな？

あ：何かに押し付けてる感じですね、でも。ガラス…コピー機なのか、窓なのか。でもなんとなく…重力的に下向いてる感じがしますね。

光：で、それが結局A3の大きさの紙、縦長に、まあ写真のようになっていうの？額は？

か：ないです。これはコピー。

高：コピー用紙ちゃうかな。ほんまの。

光：そんな感じなんです。作者はこんないっぱいいつくってるってことですか。コピー機で。

あ：そんな感じがしますね。

光:それで、何を、何を言おうとしてるんですか、これは。そこに入っていきかないかな。

高：何を言おうとしてるっていうか、楽しんでそう。いろんなものを乗せてコピーするのを楽しんで、いろんなものでやってそう。

光：やってみたら、どんな結果のコピーが出来てくるかなって、楽しみながらいろんなものを置いたり、顔をあてたりしてやってるんじゃないかっていう感じ？

か：写真撮る感覚ですよ。1回きりなので、その…挟んでっていうか好きなものを並べて、で自分も…自分か誰かわからんけど、人が入れて、で撮るよでピッとスタート押すみたいな、感じ。光：なるほどなるほど。そうか写真撮るような感じで。コピー機で。

か：一人で出来ないかも知れないですね。

高：あぁ抑えてもらうんね。

か：今押してくださいみたいな。蓋ちょっと閉めますとか。2人くらいはいる。

光：これは…この写真、そういう撮り方やと、もししたらですけど、いいですね。見えない人が写真を撮るっていう感じで、そういう風にしても、僕もやってもいいかもしれないですけど。例えばさっき食べた和菓子を乗せて、そして蓋をやって手も置いて…ちょっとかぶりついているようにして撮れば、そういうものが撮れる、出来るってことですよ。

高：でも、写真のように鮮明にとれないってところがポイント。奥行そんなに、撮れる感じじゃないんで。

光：接写してる。

高：そのへんが、それがなんか独特な感じが出るっていうか、写真ではないんやなっていうのが。こうゆうでもイタズラしたよな。

あ：私もやったことがあります。自分の手とか。

高：顔パーッと押し付けたりとか。

か：経験者がいた。

光：顔押し付けたらあれ？

高：ちょっと写真っぽい感じになる。でも押し付けないとアカンから、大体顔がへちゃがった顔で出るんですけど。この人は鼻だけ、鼻と手だけ押し付けてる。

あ：あとは色味が変えているから…写真っぽくないっていう。そのままのコピーじゃないから。

光：これは、じゃあ、これはカラーコピーではなくて…色つけてるのかな？

あ：モノクロにした時の、白を黄色、とか。黒を青色に、これはしてある。

光：それは後から塗ってる感じなんですか？

あ：なんかデータをいじってるのかな？彩度やったり。

光：コピーしたデータを、加工してやってるんじゃないかってこと。

あ：スキャンしてるとか。

高：ああ…でも、なんで自分も入ろう思ったんやろ。だってものだけでもよかったやんこれ。

光：入りたいんやろ。

あ：この隙間を狙って、入った感じが。

高：人が入ってんのが面白いよね。これ。

光：なんかその、さっき言った洗濯ネットとか、レースでしたっけ？

か：レースのカーテンみたいな。

光：なんでそれを選んだんでしょう。面白いんですかね、それが。

か：触りごち。

光：触りごちで選んだ？

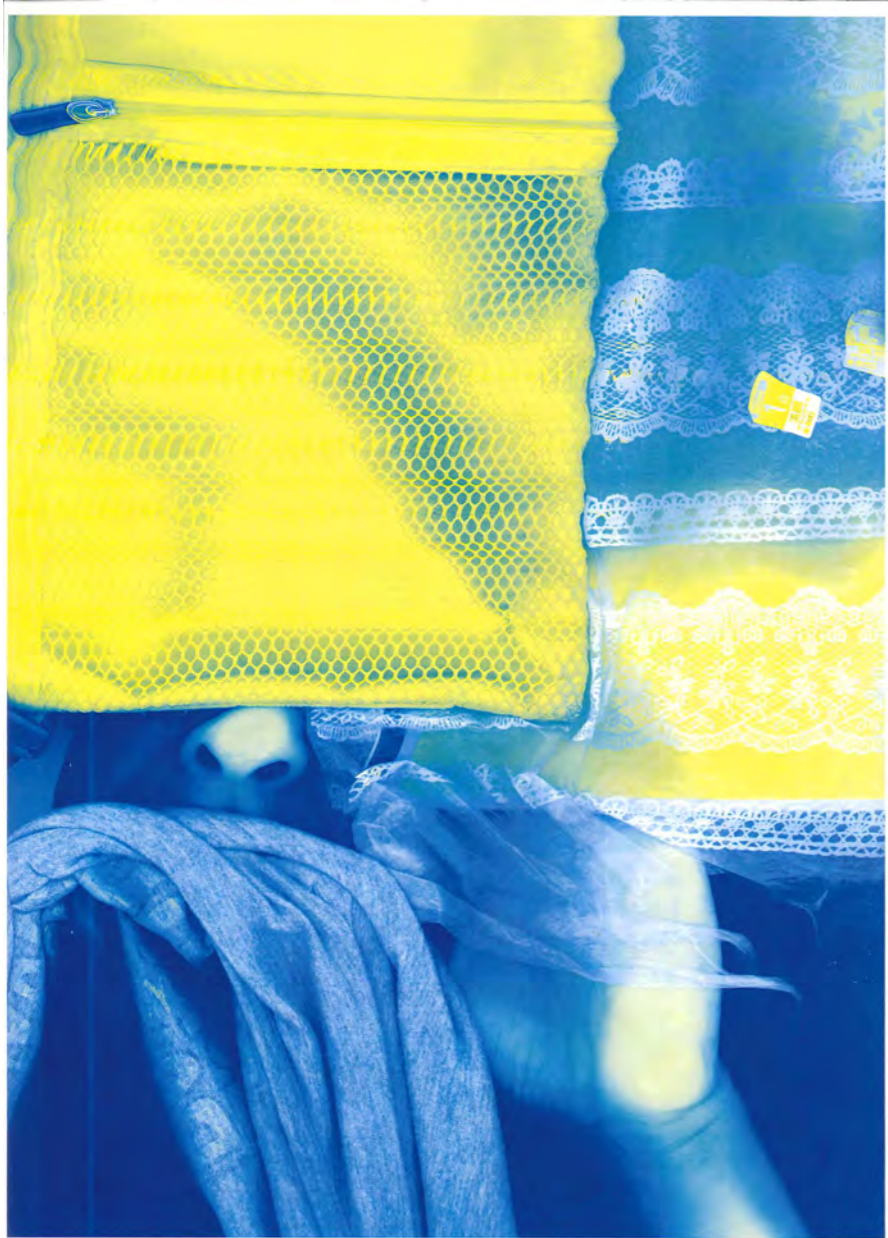
あ：そこらへんにあったものを並べてみて…。

か：アトリエの中にあるものとか。

高：確かにどれも、ほんまに、身近にあるものをもってきた感じですね。

あ：とりあえずやってみるか〜みたいな…奇跡の1枚？

光：なんかいっぱい見たいですね、これ。どんなのがあるのか。



井口直人

IGUCHI Naoto

作品タイトル：「無題」

制作年：不明

サイズ：257×364mm

素材：紙、インク、複写機



対話鑑賞の音声は上記 QR コードにて
ご視聴いただけます。(14分24秒)

対話鑑賞 #4

井口直人の作品について

—

光島（以下・光）：じゃまた第一印象からいきま
すかね。じゃあ、あかねさんからお願いしてい
いですか。

あかね（以下・あ）：…写真。

光：写真、ですか。

あ：はい、2色の写真。

光：2色？

あ：3色？あ、でも光と影。

光：あ…え、モノクロ？という？

あ：黄色と…青。

光：の写真？

あ：の写真…まあ白い部分も、ハイライトであ
るけど。歪んでたりとか重なってたりとか、し
てますね。

光：かめちゃんはどうですか？

かめちゃん（以下・か）：布地が…柄違いって
いうか、レースっぽい布と、あとこれなんだろ
これ？洗濯ネットみたいな。なんかチャック、つ
いてますよね。洗濯ネットみたいのと、あと
ちょっとゴアゴアとしたシャツか、服みたいなの
も写ってます。

光：高内さん。

高内（以下・高）：私は、まず色が好き。あのね、
ブルーと、青と黄色、真っ青と真っ黄色の組み
合わせが、なんかすごく、なんかちょっと…ス
ベイシーな感じがある。近未来的な感じがする
のに、でもレースがあるのとのギャップが不思議
で。でもなんかね、写真っていうのよりコピー
のようにも…コピー機の上にね、もの置いてこ
んなことしたらこんな感じになるんちゃうか
なっていう気がする。これとか手…ちゃうかな？
なんか手みたいなの。

あ：手と鼻ですよね。

高：え？鼻？…あホンマや。びっくりした！

光：ちょっと待って、これはちゃんと構図を聞
かなアカンみたいな気がしてきた。

か：A3サイズです。

光：A3サイズの縦？横？

か：A3サイズの縦長で。で上半分ぐらいに布の
洗濯ネットみたいなのが左にあって、右側がレー
スのカーテンみたいな。

光：え、それは実際の生地があるって？

か：生地です。布地です。で、その…鼻…鼻
と手…。

光：が、どこにある？

高：絵じゃなくて写真っぽい感じなんです。

あ：で、なんか、左上のその洗濯ネットと、左
下の布ちょっと掛けてあるような、隙間に鼻が
覗いてるんですよ、人の鼻が、ウォンって。

光：真ん中ですか？

あ：真ん中で、隙間に。洗濯ネットと布地の間
に鼻がニョって…でも、そやね、高内さんが言
うようになんかプリントしてる。コピー機。

高：鼻とか手を、ぎゅって押しつけたらこんな
感じになるんちゃうかな。

光：うろみたいな感じ？

あ：うろですね。うろになってますね。

か：そのところ、そのお膳の上にコップとお皿
みたいなのと、なんだろう、水入れる…この…

なんていうんですか？あれ。

あ：水差しみたいなの

か：水差しみたいなの？

高：ポット。

か：がおいてある。2セット。

高：で、人もいるんですよ。人はねその木より
手前にいてて、一番手前に、この絵の中で一番
手前にいて。

光：うろの中じゃなくて？

か：ちょっと手前。

あ：うろの前ですよ

か：なんか椅子みたいなのに座って

高：2人向かい合わせて座ってる。

光：それが一番手前というか、その奥にうろが
あって。そこに食器というか…。

高：うろって何？さっきからみんな普通に使っ
てるけど。

あ：フクロウが住んでたりとかするよな、切
り株の中に空く空洞のなんかそうゆう。フクロ
ウもいます。

光：ああいるんや。

か：あ、フクロウもいる。これ

あ：両サイドに。

高：いろんな動物がいます。

光：いろんな動物。うーん、フクロウだけじゃ
なくて。何がいますか？

あ：リス？

か：オオカミ。

光：オオカミ？

高：ニワトリみたいなの。

か：トリ

あ：確かに動物もシンメトリー

光：動物がシンメトリーっていうのは両側にい
るっていうことですか？

あ：木の上にいる子はシンメトリーで、反対の
木の幹の上にいるりとか。

光：同じ動物が、ってこと？

あ：同じ動物。

光：えーじゃあ、2つづつそろってるみたいなの
感じですか？さっきの人ふたりでしたもんね。

か：人もふたり。

あ：でも人はなんか男女。というか髪の毛の短い人と、
ちょっと長めの。

高：ふたりともスカートみたいな履いてる気
がする。

あ：じゃあ女の人か。でも髪型が全然ちがう。

か：一人がロングで一人がショート。

光：一番遠い景色はなんですか？

か：山みたいなの

高：なんか田舎の風景みたいな感じなんですよ
ね。

光：木は1本でした？

高：1本。

か：1本ですね。

あ：切り株の大きいやつみたいなの。

か：これはなんだ？

高：奥なんやろね。なんかさ稲刈りをしたあとの、
なんか刈ったやつが山になってるやつみたいなの
見える。

あ：もみみたいなの。アクリイのなんか、土の山
みたいなのがポコポコある。日本庭園の石にも
見えるし。

か：枯山水。

あ：枯山水…っぼくないですか？岩や石やぼこ
ぼこぼこ。

高：でも枯山水にしては多い。ものが多い、す
ごい。密度が結構高い。

光：ものが多いっていうか、さっきからいっぱい、
なんかいろんなものが出てきてるね。ちょっと、
大きさはどれぐらいなんですか？四つ切ぐら
い？

か：八切りくらい。

光：そんなに大きい訳じゃない。

か：そんなに大きくはないんですけど…細かく。

光：その中に今言ったものが全部入ってる。

あ：絵のタッチも独特ですよ。

光：どうゆう風に？

あ：線で塗ってあるというか

高：これなんて描いてんのやろ。ペン？色ペン？

か：なんかボールペンみたいな。

あ：点で塗られてたりとか。

か：ここらへんはマジックですかね？

あ：ラメのペンみたいなの。

か：細かいです。

光：例えば1つの動物、リスならリスの大きさと、
どれぐらいの大きさですか？

か：3cm？4cmくらい

光：ちっちゃいな。

あ：細かい絵ですよ。

光：背景は、何も描いてないところはやっぱり
白ですか？色は塗りつぶされてる？

高：これなんか塗ってるんかな？

か：黄色？黄色のてんてん？

高：そう青空とかではないんですよ。

あ：でもなんかこう明るい。明るく光を感じる。

か：なんかこの絵の四方に、あの…なんだろう、
これ。額じゃないんですけど、縁取って枠みた
いなの描いてあって。

高：装飾が、あの模様みたいなのがあるんです
よね。絵の中の要素ではないというか、絵の中
の場面に出てくるものじゃなくて、絵の外側
にある模様、フレームみたいなのが。

か：飾ってる。

光：周囲に？四方、四辺とも？

高：上下だけ？

か：こっち、こっちもちょっとあるから。ある
のかも。

あ：額装したらみえなくなってるけど、たぶん。

四方に。

光：あ、額装されてるんですね。

か：はい。マットがついているので、その…あ
の隠れてるかもしれないですけど、ちょっと飾っ
てるフレームが。

高：儀式っぽい感じもするんよな。なんとなく。

光：儀式？

か：向き合って。

高：向き合って。なんかこう。

あ：枝を交換している。

か：なんか枝みたいなのを。

あ：なんか枝みたいなのをもって、向かい合わ
せに笑顔で枝を見せ合ってるみたいなの。

光：両方とも枝を持ってるんですね。両方とも。

か：持ってます。一本づつ

あ：その枝と枝をすごい近い距離で見せあつ
てるみたいなの。

光：へー。

高：この看板なんやろね？右下に、これだけシ
ンメトリーではないんですけど、画面の右下に。
なんか、看板みたいなの。

か：サイン？

高：サインなんかな？

か：サインか、タイトルか。

あ：でもあの、看板…持てるような看板。木っ
ぽい、立て看板みたいなの。

光：なんか描いてあるの？

高：なんか筆記体。英語の筆記体みたいな字で
なんですけど、読めない。なんて描いてるか
わからへん。

光：立札みたいなのこと？なんやろ謎やね、そ
れが分かれば…ってとか言う感じ。

あ：読めそうで読めへん。でも多分筆記体やね。

光：で、まあ雰囲気としては非常に明るい幸せ
な感じっていいましたね。さっき、それは見て
いるうちになんか変わってきました？そんなこ
とはないですか？

高：私はなんかハッピーだけちょっと怖い感
じがする。

光：儀式っていったもんね。

高：なんか…なんやろ。

光：なんかその、2人の人に対して色んな動物が
集まってきてるっていう感じですか。

あ：そんな感じですねみんな見てますよね、人
のことを。

高：祝福してそう。

あ：なんか木の上に、一つだけまあるくて顔が
描いてある。

か：眉毛と、目と鼻と口がある。

あ：ほんと梅干しみたいな感じで木にぶらさが
ってる感じのが1つだけ。

光：ちょっとそれ気持ち悪いねそれ。

高：でも顔はかわいい。

光：でも木にぶらさがってるんやろ。

か：でもこれだけなんかちょっと気になるよね。
あ：これだけ気になるよね。テイスト違う感じ

ですよね。
光：それはどこを見ての？その人は。
高：太陽じゃないよね？これ
か：木の枝の隙間にいるんですけど、その実にくっついてるような、離れているような。
あ：見えたからぶらさがっているような。でも太陽にも見えるかも。本当に表情が、覗いてる。
光：太陽が覗いてるっていうか、人が覗いてるようにも見える？
あ：どこを見てるかっていうと我々ですよ。目線は我々にあるけど。
高：なんか色使いが全体的に独特なんですよ。なんか、それはなんでなのかな？って思うんですけど、それはピンクとかが多用されているからなんか。
か：黄色とピンク。
高：奥のね、一番奥って山って言ったじゃないですか、その山の色も普通の緑っていうよりミントグリーンで、輪郭がピンクで描かれたりしてるんですよ。
あ：ピンクの上になんか塗ってる感じ？
高：ピンクの上に塗ってんのかな。あ、そうなんか。そっかそっか。その緑とピンクの組み合わせとか…。
か：黄色と。
光：それってどぎついんですか？
あ：クリーミーな感じ。白っぽい。
光：クリーミーなんですか
高：ファンシーでもある。
光：えっと…食べると美味しそうな色ですか？
あ：パッションフルーツみたいな。南国感。トロピカルな感じ。
か：絵もなんかそんな感じですね。
高：でも食べるとただ甘いだけじゃなくて、少し刺激がありそう。味でいったら。
光：それはいい表現ですね。
高：なんかピリッとしてそう。
あ：シイタケじゃなくて毒キノコみたいな。
高：あ、確かにカラーリング、毒キノコのな、感じる。それが不穏な感じる原因なんかな。
か：絵もそんな感じて思ってた見たら、そういう風に見えてきました。
高：最初ハッピーな感じて思ったけど。
あ：でもこの大木の後ろに描かれている背景は、すごい夕方の光が差し込んできて、夕日が竹林みたいな。
高：なんか牧歌的な。感じ。
光：牧歌的な田舎の。夕方ですか？
あ：私は夕方のなんか…光の色、黄色ででんでんでんでんってなってるだけなんですけど、やわらかい背景は。ただ手前はバキッとした色をつあかってはるから。
光：これはなんかのどっかの場所。実際にある場所ではないですよ、だから？
か：うーん…日本ではない。感じます。
高：なんか起きる直前にこういう…絵っていう

かシーンをみそう。
光：起きる寸前ってどうゆうこと、それ。
高：なんでかな。ちょっとなんか…しばらく頭にのこってる。
光：みなさん、そんな夢を見て起きるの？
あ：不思議の国のアリスじゃないけど、ちょっとおとぎの国にきちゃったみたい。そういうかわいいんだけどちょっと不気味な。
光：ちょっと不気味なところもある。
高：やっぱりそのちょっと非現実的な感じがある。だから夢っぽいかもしれない。
光：なんかその、えっとまあ遠近法とかは別に、特に使われてないんですか？
高：奥の山とかは小さいし、手前のものは大きい。
光：それが…おかしいっていう感じはないですよ？遠近法が崩れてるとかそういう訳ではない。
あ：なんか自然の風景を描いてるけど、自然にはない色を使ってはる。
高：ああ、そやね。そやね。木の枝と違って別に…ブルー、青緑みたいな色やけど、そんな色じゃないし、木の幹も黄色っぽい色で塗られてるし、茶色じゃないもんね。
あ：地面も黄色に緑の点々が…砂地なんか土。ただ背景だけはリアル、リアルっていうか風景画ですね。癒される。
か：すごいっぱい描きこまれてます。
か：枝を交換している？
高：枝を交換している。
あ：これなんやろ。
か：なんか儀式？お箸？
あ：見てみたい表情はしてる。
か：喋ってる感じ。
あ：これいいやろーみたい。
か：いい枝。
光：枝なんですか、ホンマに？
高：笛とかではないよね？
あ：茶色くて細長くて1本だけ。最初お箸かなって思ったけど。でも1本だけ
光：え、ちょっと、真っすぐなんです？ちょっとぐらいうる…湾曲してたりとか。
あ：先っちょだけちょっと細かいかな。
光：お箸やなそれは。
あ：お箸かな。右手でもってるんですよ。どっちも。
高：あんた、先使いみたいな。
か：次使うーって。



上 | 下 対話鑑賞の様子
(右から、光島貴之、高内洋子、あかねさん、かめちゃん)